

昭和

口史子 村田久子 木日免
廣瀬みき 菅村和子 山口俊彦
也子 池田路子 斎藤弘子

石川功子 神田伊佐子 笹本
明 山口順三郎 秋原泰子
武田明子 渡辺壯 長井誠治

佐藤靖子 桑原豊子 有田良
子 上田ヤスエ 坂上美智子
金光敏子 堀江展子 小串み

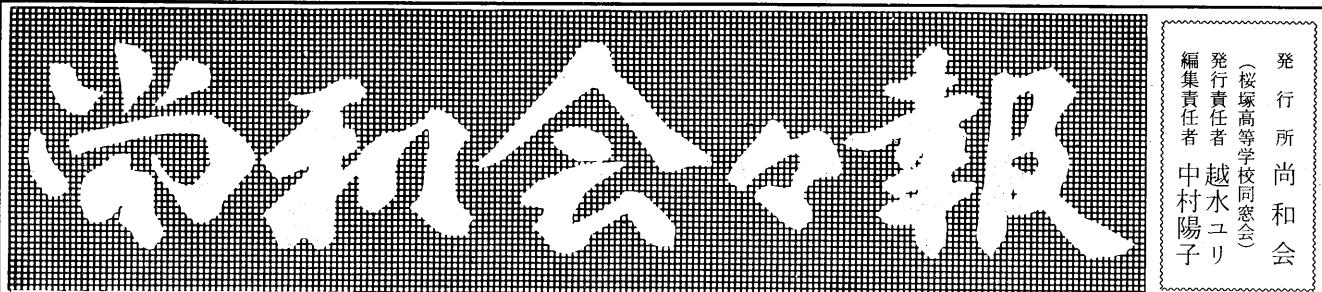
馬場弓子 青柳えり 旗川法
子 田淵すみ子 (高七) 静香 村上知則 (高二十九)
江哲郎 佐藤暢子 馬場幸子 (高一) 多田直行 今西貴子 (高
北野伸美 (高八) 藤井睦子 三十) 戸谷康子 渡辺美香

馬場弓子 青柳えり 旗川法
子 田淵すみ子 (高七) 静香 村上知則 (高二十九)
江哲郎 佐藤暢子 馬場幸子 (高一) 多田直行 今西貴子 (高
北野伸美 (高八) 藤井睦子 三十) 戸谷康子 渡辺美香



会報和尚会

昭和55年4月1日



発行所 尚和会
(桜塚高等学校同窓会)
発行責任者 越水ユリ
編集責任者 中村陽子

昭和五十五年度総会開催 新ホール完成



美しい南庭も池も、すっかりとり壊されてしまいました。
その代り、新しいグランドが完成いたしました。

古い物が亡び新しい生命の育っていくのが世の常とはいえ、やはり淋しいものです。
五月の総会の一日を、旧友と共に昔をなつかしみ今を喜び合いながら、お茶室で、
おうすなど頂き、語り合って下さい。

月二十日、担当副会長を始め
会員一人一人の大変なご尽力
により、ずつしりと重いうす
緑の表紙の一万八千余人に及
ぶ尚和会員名簿を発刊でき
ました。この事業は、私たち
尚和会員の連体意識を強める
力となりましたと存じます。
その事も含めて深く感謝し
ております。

一九八〇年代の幕明けは、
国際的にも国内的にも、まことに不安なものでございまし
た。裏切つたり裏切られたり
どうにも予想のつけにくい事
が次々に起つて、私たちは戸惑いました。せめて、私たち
尚和会員同志は、信じ合
える仲間作りをしていきたい
ものです。

今年は役員改選の年です。
役員はじめ幹事、理事の方も
一応二年で任期を終わります。
現在役員候補送出のために
推せん委員会が結成されてい
ます。

昭和五十三年五月に会長を
受けたより、はや二年、長い
ように思つておりましたが、
参加した母校の学校行事や、
同窓会行事のいろいろが関連
ありました。

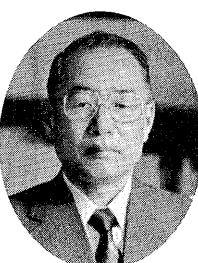
会長 越水 ユリ

五百三十五年五月に会長を
受けたより、はや二年、長い
ように思つておりましたが、
参加した母校の学校行事や、
同窓会行事の一つである会
同窓会行事のいろいろが関連
ありました。

五百三十五年五月に会長を
受けたより、はや二年、長い
ように思つておりましたが、
参加した母校の学校行事や、
同窓会行事の一つである会
同窓会行事のいろいろが関連
ありました。

会長 越水 ユリ

尚和会の皆様へ



学校長 石橋勘一郎

五月十八日(日) 正午から体育馆で
◎総会
一、事業報告・会計報告
二、役員改選その他
三、アトラクション
四、福引き
(当日多少の変更はお許し下さい)

総会プログラム

五月十八日(日) 正午から体育馆で

このたび、一月一日付をも
ちまして、はからずも本校に
勤務を命ぜられました。
前校長山本俊雄先生のすぐ
れたご経営のあとを受けて、
光栄に存じますとともに、そ
の任の重大さを痛感いたして
おります。もとより浅学非才
微力ではございますが、力一
杯、本校の輝かしい伝統をう
けつぐべく精励いたす覚悟で
ござります。

本校は、昭和四十八年三月、
校舎建築の第一期工事が始ま
りましたが、経済情勢悪化の
ため工事が遅延いたし、昨年
ようやく旧校舎の建つていた

あります。ようお願い申し上げ、
まことに失礼ながら紙上をお
借りして一言ご挨拶申し上げ
ります。

以前にも増して活力ある教育
を推し進め張切っております。
今後とも、尚和会の皆様の
温かい御支援と御鞭撻を賜わ
りますようお願い申し上げ、

あります。ようお願い申し上げ、
まことに失礼ながら紙上をお
借りして一言ご挨拶申し上げ
ります。

鐘のひびき

叙勲の喜びを

佐々木茂八(元教諭)

昭和55年4月1日 尚和会報

私、昭和五年に京都大学を出て松江中学校に赴任し、昭和八年に大阪府に転じ、高津中学校を経て、昭和十二年、桜塚高等学校の前身豊中高等学校として大阪市内の生野高等女学校の運動場の一隅に省線の雜踏にもまれ、現在地の校舎に移つてからは次第に熾烈となる戦時体制に対処し、第一期生と共に一年間、其に苦勞を重ねてきました。一層生徒との心の結びつきを深くし、終戦の年、池田中学校長に転じ、その後、大阪市に入り、東高等学校長、大市教育委員会指導課長、桜宮高等学校長を歴任し、昭和四十二年満六十歳に達して定年退職し、金蘭千里高等学校の一教師として第二の人生を踏み出し、一方箕面市の教育委員を命ぜられ教育問題に組んで今日に至っています。

ところが、思いがけなくも昨年の十一月三日の文化の日、叙勲の光榮に浴し実に身に余ることだと驚いた次第です。指示された通り十一月九日家内を同伴して上京し、文

部省主催の国立劇場における伝達式に出席し、勲四等、旭日小綬章を受け、それぞれ胸に勲章と付け、用意されたバ

松、昭和五年に京都大学を

出で松江中学校に赴任し、昭

和八年に大阪府に転じ、高津

中学校を経て、昭和十二年、

桜塚高等学校の前身豊中高等

女学校として大阪市内の生野

高等女学校の運動場の一隅に

省線の雜踏にもまれ、現在地

の校舎に移つてからは次第に

熾烈となる戦時体制に対処し

其に苦勞を重ねてきました。

一層生徒との心の結びつきを

深くし、終戦の年、池田中

学校長に転じ、その後、大阪

市に入り、東高等学校長、大

市教育委員会指導課長、桜

宮高等学校長を歴任し、昭和

四十二年満六十歳に達して定

年退職し、金蘭千里高等学校

の一教師として第二の人生を

踏み出し、一方箕面市の教育

委員を命ぜられ教育問題に取

組んで今日に至っています。

ところが、思いがけなくも

昨年の十一月三日の文化の日

に、叙勲の光榮に浴し実に身に

余ることだと驚いた次第です。

指示された通り十一月九

日家内を同伴して上京し、文

板張りの仮校舎で孤々の声を挙げた時に、その一教員となり、第一期生と共に一年間、省線の雜踏にもまれ、現在地の校舎に移つてからは次第に熾烈となる戦時体制に対処し、其に苦勞を重ねてきました。一層生徒との心の結びつきを深くし、終戦の年、池田中学校長に転じ、その後、大阪市に入り、東高等学校長、大市教育委員会指導課長、桜宮高等学校長を歴任し、昭和四十二年満六十歳に達して定年退職し、金蘭千里高等学校の一教師として第二の人生を踏み出し、一方箕面市の教育委員を命ぜられ教育問題に取組んで今日に至っています。

ところが、思いがけなくも

昨年の十一月三日の文化の日

に、叙勲の光榮に浴し実に身に

余ることだと驚いた次第です。指示された通り十一月九

日家内を同伴して上京し、文

部省主催の国立劇場における伝達式に出席し、勲四等、旭日小綬章を受け、それぞれ胸に勲章と付け、用意されたバ

松、

転居後連絡先がわからない
ま、音信不通でした。が誰方が
御親切な方が連絡して下さり
久し振りに会報を受取り大変
嬉しうございました。

高六 広瀬みき子

高七期幹事様、次回同期会
は、春休みか夏休みにお願い
します。

高七 太田有希子

数年ぶりに届きました会報
に感激も一しおでございます
昔の面影はなく、しかも立派
にしてみたいたいにかり立て
られます。

高八 若木美知子

以前東京支部の同窓会が開
かれた様に思います。誰方か
今度ある時教へて下さい。

高九 川島玲子

久し振りで会報頂きました
主人の転勤で宇都宮住まい、
日光彌に精を出しております。

高十 小原瑛子

結婚して十七年余、主人の
仕事の関係で全国各地を廻っ
ています。昨年四月芦屋から
熊本に参りました。月に一度
は帰阪しますが、友人と会う
機会がなく残念に思つてます
よみ、豈中時代をなつかしく
思い出しました。

高十一 倉石豊美子

九州に来て五年になり会報
をお見舞も申し上げなかつた
ことを思ひ出しました。

高十二 田中村

卒業後一〇年目に初めて、
会報を頂きました。しかも、
恩師の奥様が会長に御就任と
は、益々の御发展を祈ります。
小生卒業以来東京に出で
おり会のために非協力であつ
た事を申し訳なく思つてます
母校からはじめて便りを頂
きました。とてもなつかしか
ないです。考へればもう二十
年近くになるのにびっくりで
す。

高十三 牧林悦子

高十四 新開暁子

高十五 宮下昌子

高十六 池本節

高十七 鈴木道子

高十八 竹原翠

高十九 田中

高二十 田中

高二十一 山岡敏子

高二十二 加藤明

高二十三 藤井千鶴子

高二十四 田中

高二十五 田中

高二十六 田中

高二十七 田中

高二十八 田中

高二十九 田中

高三十 田中

高三十一 田中

高三十二 田中

高三十三 田中

高三十四 田中

高三十五 田中

高三十六 田中

高三十七 田中

高三十八 田中

高三十九 田中

高四十 田中

高四十一 田中

高四十二 田中

高四十三 田中

高四十四 田中

高四十五 田中

高四十六 田中

高四十七 田中

高四十八 田中

高四十九 田中

高五十 田中

高五十一 田中

高五十二 田中

高五十三 田中

高五十四 田中

高五十五 田中

高五十六 田中

高五十七 田中

高五十八 田中

高五十九 田中

高六十 田中

高六十一 田中

高六十二 田中

高六十三 田中

高六十四 田中

高六十五 田中

高六十六 田中

高六十七 田中

高六十八 田中

高六十九 田中

高七十 田中

高七十一 田中

高七十二 田中

高七十三 田中

高七十四 田中

高七十五 田中

高七十六 田中

高七十七 田中

高七十八 田中

高七十九 田中

高八十 田中

高八十一 田中

高八十二 田中

高八十三 田中

高八十四 田中

高八十五 田中

高八十六 田中

高八十七 田中

高八十八 田中

高八十九 田中

高九十 田中

高九十一 田中

高九十二 田中

高九十三 田中

高九十四 田中

高九十五 田中

高九十六 田中

高九十七 田中

高九十八 田中

高九十九 田中

高一百 田中

高一百一 田中

高一百二 田中

高一百三 田中

高一百四 田中

高一百五 田中

高一百六 田中

高一百七 田中

高一百八 田中

高一百九 田中

高一百十 田中

高一百十一 田中

高一百十二 田中

高一百十三 田中

高一百十四 田中

高一百十五 田中

高一百十六 田中

高一百十七 田中

高一百十八 田中

高一百十九 田中

高一百二十 田中

高一百二十一 田中

高一百二十二 田中

高一百二十三 田中

高一百二十四 田中

高一百二十五 田中

高一百二十六 田中

高一百二十七 田中

高一百二十八 田中

高一百二十九 田中

高一百三十 田中

高一百三十一 田中

高一百三十二 田中

高一百三十三 田中

高一百三十四 田中

高一百三十五 田中

高一百三十六 田中

高一百三十七 田中

高一百三十八 田中

高一百三十九 田中

高一百四十 田中

高一百四十一 田中

高一百四十二 田中

高一百四十三 田中

高一百四十四 田中

高一百四十五 田中

高一百四十六 田中

高一百四十七 田中

高一百四十八 田中

高一百四十九 田中

高一百五十 田中

高一百五十一 田中

高一百五十二 田中

高一百五十三 田中

高一百五十四 田中

高一百五十五 田中

高一百五十六 田中

高一百五十七 田中

高一百五十八 田中

高一百五十九 田中

高一百六十 田中

高一百六十一 田中

高一百六十二 田中

高一百六十三 田中

高一百六十四 田中

高一百六十五 田中

高一百六十六 田中

高一百六十七 田中

高一百六十八 田中

高一百六十九 田中

高一百七十 田中

高一百八十一 田中

高一百八十二 田中

高一百八十三 田中

高一百八十四 田中

高一百八十五 田中

高一百八十六 田中

高一百八十七 田中

高一百八十八 田中

高一百八十九 田中

高一百九十 田中

高一百九十一 田中

高一百九十二 田中

高一百九十三 田中

高一百九十四 田中

高一百九十五 田中

高一百九十六 田中

高一百九十七 田中

高一百九十八 田中

高一百九十九 田中

高一百二十 田中

高一百二十一 田中

高一百二十二 田中

高一百二十三 田中

高一百二十四 田中

高一百二十五 田中

高一百二十六 田中

高一百二十七 田中

高一百二十八 田中

高一百二十九 田中

高一百三十 田中

高一百三十一 田中

高一百三十二 田中

高一百三十三 田中

高一百三十四 田中

高一百三十五 田中

高一百三十六 田中

高一百三十七 田中

高一百三十八 田中

高一百三十九 田中

高一百四十 田中

高一百四十一 田中

高一百四十二 田中

高一百四十三 田中

高一百四十四 田中

高一百四十五 田中

高一百四十六 田中

高一百四十七 田中

高一百四十八 田中

高一百四十九 田中

高一百五十 田中

高一百五十一 田中

高一百五十二 田中

高一百五十三 田中

高一百五十四 田中

高一百五十五 田中

高一百五十六 田中

高一百五十七 田中

高一百五十八 田中

高一百五十九 田中

高一百六十 田中

高一百六十一 田中

高一百六十二 田中

高一百六十三 田中

高一百六十四 田中

高一百六十五 田中

高一百六十六 田中

高一百六十七 田中

高一百六十八 田中

高一百六十九 田中

高一百七十 田中

高一百二十一 田中

高一百二十二 田中

高一百二十三 田中

高一百二十四 田中

高一百二十五 田中

高一百二十六 田中

高一百二十七 田中

高一百二十八 田中

高一百二十九 田中

高一百三十 田中

高一百三十一 田中

高一百三十二 田中

高一百三十三 田中

高一百三十四 田中

高一百三十五 田中

高一百三十六 田中

高一百三十七 田中

高一百三十八 田中

高一百三十九 田中

高一百四十 田中

高一百四十一 田中

高一百四十二 田中

高一百四十三 田中

高一百四十四 田中

高一百四十五 田中

高一百四十六 田中

高一百四十七 田中

高一百四十八 田中

高一百四十九 田中

昭和55年4月1日

人事移動

人	事	移	動
(全 日 制)	府	立 芥 川 高 校	へ
退 職・倉 田 順 雄 先 生	(國 語)	(轉 入)	岩 崎 紀 美 子 (國 語)
津 田 潔 先 生	(社會)	坂 本 信 彦 (國 語)	
美 濃 部 道 さん	(事 務)	藤 原 利 庸 (社會)	
木 村 洋 男 先 生	(社會)	青 谷 卓 (社會)	
府 立 長 尾 高 校 へ		松 井 利 雄 (社會)	
今 泉 憲 一 先 生 (音 樂)		柄 岡 章 (社會)	
府 立 天 王 寺 高 校 へ		福 田 恭 久 (保 休)	
永 広 達 先 生 (英 語)		林 佳 二 (英 語)	
府 立 天 王 寺 高 校 へ		西 村 晃 (英 語)	
藤 井 恒 男 先 生 (英 語)		森 本 真 智 子 (英 語)	
府 立 守 口 高 校 (定) へ		西 山 真 紀 子 (英 語)	
(定 時 制)	(新 任)	中 井 美 惠 (音 樂)	
転 出・上 野 駿 先 生 (社會)	(定 時 制)		
府 立 芥 川 高 校 へ	(轉 入)		
福 田 正 年 先 生 (體 育)	(新 任)		
府 立 芥 川 高 校 へ			
竹 下 栄 先 生 (生物)			
府 立 東 豊 中 高 校 へ			
小 林 清 太 郎 さ ん (技 師)			
日 吉			
森 本 加 藤 ま り 子 (國 語)			
森 本 雅 弘 (保 休)			
昭 夫 (商 業)			

尚和會協力金

部からの
御報告とお願ひ

副会長
安松
和子

去る一月二十六日、理事会に於て
① 従来の会報協力金を尚和会協力金と改称する。
② 尚和会協力金は一口千円とする。

たので、会員の皆様に御報告
申し上げます。

なお、①②の件につきましては、諸物価、年々高騰のため、尚和会諸行事にも支障をきたし、特に今夏の郵便代値

会報発行協力金

会報発行協力金	
五万円	(女四) 内藤純子
三万円	(高十一) 大岩昭夫
二万円	(女四) (匿名)
一万円	(女一) 越水ユリ (女三) 三ツ矢喜代子 (女)
四) 安松和子 (女六) 岩谷 冴子 大島美智子 大田垣準 子 伊藤富美子 (高五) 野 上幹子 (高十七) 正田好彦 (高二十) 吉川敏朗 きり子 (女一) 加藤千代子 福原直 五千円	(高十二) 荒木久保 (二十四) 高十二) 水川千鶴子 (定六) 若江 (女二) 清子
二千五百円	(女一) 和多利二三子 (女) 六) 矢野紀美 (女八) 細見 彰子 (高五) 久保喜将 (高十二) 荒木久保 (二十四) 高十二) 水川千鶴子 (定六) 若江 (女二) 清子
五千円	(高六) 岩崎圭子 渡辺明子 一色貞輝 中村友美 (高七) 北川弘子 林下由美子 今 枝和子 松浦峻 (高八) 木 谷晋司 (高十) 上西成子 (高十二) 南泰子 (高十四) 藤田健一 (高十七) 平井 ヒサヨ 西口清治 (高二十) 五) 余賀明人
五千円	(高步一) 札子 (高二) 藤本眞 知子 下塚正子 (高三) 福 井忠雄 (高四) 渥美智子 松田祝三 (高五) 山口朋三 (高六) 岩崎圭子 渡辺明子 一色貞輝 中村友美 (高七) 北川弘子 林下由美子 今 枝和子 松浦峻 (高八) 木 谷晋司 (高十) 上西成子 (高十二) 南泰子 (高十四) 藤田健一 (高十七) 平井 ヒサヨ 西口清治 (高二十) 五) 余賀明人

谷川康子	(高三) 春木和枝	岩方喜恵子	(高三) 春木和枝
富島保司	(高四) 青木政之	外海久美子	於勢幸子
淑子	片瀬芳弘	昭夫	松浦順子
(高八)	栗山秀子	(高九)	栗山秀子
角谷安宏	国方盛行	渡部循子	板倉英世
知子	若木美誠	桜沢尚子	(高一)
(高九)	鷺森誠	田中勇之祐	小川晴紀子
洋子	上田味舌純子	(高十)	山田
森本泰恵	土井雅子	柴草慶一	喜子
(高一)	橋本典子	(高十一)	北まち子
千慧子	足立	田中勇之祐	板倉英世
田辺嘉之	日野田征佑	(高十二)	(高一)
中登美子	(高十四)	斎藤一雄	北まち子
(高十八)	西田善	(高十六)	板倉英世
次	村田恵美子	小石雅也	喜子
(高十五)	(高二十)	湯村晏	北まち子
深井順治	子	林みどり	板倉英世
(高二)	平野一成	(高十七)	(高一)
玉置秀司	住田英	浜田嘉之	喜子
恭子	(高二)	山鳥久子	北まち子
(定十六)	中田英	西田善	喜子
岡本敏男	野間口絹江	(高二十三)	板倉英世
(定十八)	(高二十三)	青山真理子	(高一)
野幸治	牛生	牛生	喜子
理	(高二十七)	(高二十七)	北まち子
(高一)	石田恵美子	堀田泰子	喜子
玉置秀司	(高二十八)	竹内	北まち子
(高二)	平野一成	竹内	喜子
二	(高二)	高橋	喜子
(高二)	山本幸子	高橋	喜子
恭子	(高二)	高橋	喜子
(定十六)	山野マユ美	高橋	喜子
岡本敏男	(高二)	高橋	喜子
(定十八)	池本節	高橋	喜子
一永田健三	(定十九)	竹内	喜子
弘和	(定二十四)	竹内	喜子
(定二十五)	山田和人	竹内	喜子
原由多子	(定二十五)	竹内	喜子
二十八)	出口敏雄	竹内	喜子
二十八)	花田治雄	竹内	喜子

工藤美美子 近藤英子 富永
淑子 (女二) 尾崎富子 大
谷美代子 中村みち 大江美
智子 森幸子 大嶋倚久子
ヤ 龟本正子 西田富士子
酒井佐枝子 佐藤陽子 篠尾
睦子 北川富美子 大浜多美
子 山口喜久子 大河貞子
池永隆子 光信信子 大西ア
ヤ 佐藤春 吉沢幸子 小
加藤栄子 伊藤千恵子 佐野
寿恵子 横野順子 松本二三
子 (女三) 村西良子 足立
礼子 佐藤春 吉沢幸子 小
倉美弥子 猪瀬綾子 梅地満
智子 武田昌恵 藤井恆子
夏川節子 藤原貞子 (女四)
一勝野瑠子 岡村もと子 平
山美津子 田内弥生 小柳恭
子 富樫弥生 角山照子 池
川澄子 松尾昭子 前田康子
平田昭代 三箇山政 守分康
子 広川みつ子 村上那 (一
女五) 北村嘉子 西村純子
坂本陽子 杉山玉緒 浦野和
子 羽間美佐子 松田信子
野口恵美子 服部智恵子 友
子 広川みつ子 村上那 (一
大原幸子 高橋典子 萬代美年
子 内藤葉子 治多璋 伊藤
久子 高野和子 大都城和子
瀬川芳子 (女六) 須藤和子
松長子 高橋典子 萬代美年
子 藤井紀子 濑戸川達子
安芸福子 郡千代 塚本美喜
子 許斐浩子 馬場文子 岩
宮延子 指尾千枝 若林照子
西村加代子 丹波久仁子 赤
沢満子 (女七) 芝山敬子
松田喜美子 石田マリ子 田
辺光子 落合和子 飯沼賛枝
岡島淑子 河内洋子 中川美
智子 中村定子 渡辺良子 赤
矢野英子 大岡いく子 風早
黒河内喜子 (女八) 木方嘉
子 岡本愛子 菅田博子 近
裕代 高橋薫子 山本華子
藤耿子 三木幸子 川端安世
智子 中村定子 渡辺良子 赤
黒河内喜子 (女八) 木方嘉
子 岡本愛子 菅田博子 近
裕代 高橋薫子 山本華子
信岡重子 高田英美 市川志

昭和 女学生を教えた経験さえなかつた若輩が……と、今思い返しても令や升の參む思ひです

擇されていたかどうかは、い
まだに自信がありません。

以外の会員も役員の選挙にで
る手続を明確にするために、

なお詳細について問合せは、総務担当副会長真鍋（電話、二六二一・〇四六四）へまが

第一二三條

昭和五十五年度総会開催

総会プログラム



尚和会各期理事で変更のある場合は必ず新理事の名前、住所、TELを届出て下さい
学校内理事

(高二十四) 古城美幸(旧足立)
(高七) 小池エイ子
（旧岡本）
以上昭和五十五年二月十七日
現在〆切後到着分

協力金追加分

**前年号記載モレ
四〇年記念募金
一万円**

訂正 会報協力金
(高二十三) 荒木芳郎、幸子
は荒川の誤

子 (女四) 広川みつ子 岡崎尚
子 (女七) 湯浅敦子 (高一)
三) 山本孟 中村千穂子 (高二)
高五) 村上美智子 (高十一)
内田弘子 (高二十二) 岡
田圭子

(女八) 中村陽子

二千四
欠落

児玉鈴美 山口靖代 北博成
吉野雅文 中條節子 桂三保
子 (定十七) 池田直子
定十八) 中島健二 全フサエ
(定十九) 大石勇二 (定二
十七) 鷺島義一